

令和3年度 東北歴史博物館中長期目標達成自己評価（3月末日現在）【暫定版】

【評価基準 4：十分達成されている 3：ほぼ達成されている 2：やや不十分である 1：不十分である】

◎：中長期重点目標 ○：令和3年度重点目標

1 常設展示・企画展示

○ リニューアルについて、近年リニューアル・開館した博物館施設を調査したほか、東北各県の県立博物館と意見交換するなど情報収集した。また、総合展示室を含む常設展示の課題と改善案について職員の見解をまとめた。
 ○ 常設展示について、過去5年間のアンケートから、常設展示に関する記述と評価について抽出・分析し、来館者ニーズの把握に努めている。テーマ展示室では、館蔵資料の活用と構成刷新など充実を図った。
 ○ 特別展示について、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響が大きい中で、運営と展示内容を工夫し、感染症対策と展示の魅力向上を両立させた。観覧者数は目標値を下回ったが、来館者の高い満足度を得た。
 ○ 外部巡回展の誘致によって、新たな年齢層と幅広い興味・関心をもった利用者の来館につなげることができた。来年度以降も外部巡回展を積極的に誘致し、幅広い層の継続的な利用につなげていく。

活動方針	達成目標No	重点目標取組	後期達成目標	実績	評価	推進委員会の意見
(1) 何度も訪れたいくなる常設展示を目指します。	①	◎	総合展示室のリニューアルを目指し、基本的な構想を策定します。	【企画部企画班・学芸部学芸班】 ○ 徳島県立博物館や石巻市博物館など近年リニューアル・開館した博物館施設を調査したほか、東北地区博物館実務担当者会議において東北各県の県立博物館とリニューアルについて意見交換し、リニューアルのプロセスや他館の状況について情報収集した。 ○ 総合展示室の現状の課題と改善案について、各時代の展示担当を中心に職員に聞き取りを行い、資料、コンセプト、器具など、多角的な視点からの評価をまとめた。	2	常設展示の現在の課題については、来館者アンケートによるニーズの把握と併せ、年度内にまとめる。なお、本目標設定時である震災直後とは博物館を取り巻く状況は変化しており、総合展示室に限定してリニューアルを目標とする必要性は減している。次期中長期目標設定にあたっては、現在の常設展示を含む施設全体の課題を解消することを目指し、更新案を検討していく必要がある。
	②		常設展示の充実を図ります。	【企画部企画班】 ○ 過去5年間の一般及び学校団体に行ったアンケートから、常設展示に関する記述と評価について抽出・分析し、来館者ニーズの把握に努めた。 ○ テーマ展示室では、館蔵資料の活用と構成刷新など充実を図った。新企画として、「宮城県の土師器」、「中世のうつわ」を実施した。「染めの型紙」、「仙台藩の工芸-刀剣と甲冑-」、「仙台の近世絵画-仙台四大画家-」では資料の一部を入れ替えて展示し、館蔵資料を活用した。そのほかの展示でも構成と説明を見直すなど工夫して充実を図った。	3	総合展示室については、現在の課題と利用者のニーズを把握した上で、短期的に改善できるものはリニューアルを待たずに改善し、利用者の満足度向上につなげる必要がある。テーマ展示では、新企画の実施と館蔵資料の更なる活用を継続して、充実を図る。
(2) 利用者の要望をとらえ、時宜を得た魅力的な特別展示を目指します。	③	◎	魅力的な展示を実施します。	【企画部企画班】 ○ 武芸が目ざされやすい武士と、文芸的な絵画との関係特集する斬新な切り口で、特別展「みちのく武士が愛した絵画」を実施し、武士の文化面での魅力を伝えた。来館者からは仙台藩主に関わる絵画が見応えがあったという感想が多く、好評を博した（4,084人）。 ○ 実際に椅子に座れる体験や部屋再現など、資料から生活がイメージできるように工夫して、特別展「デンマーク・デザイン」を開催し、北欧デザインの魅力をわかりやすく伝えて満足度を高め、好評を博した。 ○ 特別展「ジュラシック 大恐竜展」では、コロナ禍であっても感染症対策を十分にすることで、本物の恐竜化石に触れ、ロボットや全身模型で大きさを体感できるように展示した。宮城県ではめったにない大規模の恐竜展で、迫力のある体感できる内容が好評であった。	4	昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響が大きい中で、運営と展示内容を工夫し、感染症対策と展示の魅力向上を両立させた。観覧者数は目標値を下回ったが、来館者の高い満足度が得られている。巡回展・自主企画展共に関連企画を創意工夫し、充実させたことが来館者の満足向上に繋がった。
	④	○	外部の巡回展を積極的に誘致し、幅広い利用者の来館を推進します。	【企画部企画班】 ○ 特別展「デンマーク・デザイン」では、北欧デザインに興味・関心のある20代～40代を中心に多くの来場を得た（19,394人）。 ○ 特別展「ジュラシック 大恐竜展」では、未就学児や小学校低学年を連れた家族というこれまで利用が少なかった層の来場が多かった（未就学児を含め64,812人）。 ○ 巡回展の集客効果で、常設展示と子ども歴史館についても幅広い層の利用につなげることができた。 ○ 令和4年度春開催の巡回展として誘致できた「知の大冒険」は、全国最初の巡回館であり、注目度も高く、歴史的に価値のある本を見たいだけでなく、読書やおしゃれな図書館に行くことを趣味として楽しむ幅広い世代の来館が期待される。 ○ 令和4年度冬開催の巡回展として、週刊誌で連載中の大人気歴史漫画の「キングダム」を誘致できた。中国の歴史を好きな人だけでなく、漫画好きな若い世代の来館が期待される。	4	外部巡回展の誘致によって、新たな年齢層と幅広い興味・関心をもった利用者の来館につなげることができた。来年度以降も幅広い層の来館を促す巡回展を積極的に誘致していく。

2 教育普及

- 各種講座・教室・体験イベントについて、新型コロナウイルス感染症対策をしながら円滑に運営し、参加者の歴史と文化に対する興味関心を高めることができた。
- 体験イベントについては、昨年秋から人数制限・事前予約制を実施した。運営について改善を続けるとともに、個別プログラムの内容や体験人数などを見直し、参加者の満足度向上に努めた。新型コロナウイルス感染症対策を十分にしながら前年度以上の参加者を得た。
- 体験を通して歴史を学習する場である子ども歴史館では、新型コロナウイルス感染症の影響で十分な活動が困難であったが、感染症対策をとりながら解説員を中心にインタラクティブシアターとワークワゴンの運営を継続した。
- 学習シートと探検カードを充実させ、展示室を利用する学校団体に対して学習支援を行った。これを中心に広報を展開し、学校利用の促進を図った。

活動方針	達成目標No	重点目標取組	後期達成目標	実績	評価	推進委員会の意見
(1) 多様で親しみやすく、参加したくなる教育普及事業を目指します。	⑤	◎	各種講座・教室や体験イベントの開催に際し、利用者のニーズや興味関心をつかみながら、質的向上を図り実施します。	【企画部企画班】 ○ 各種講座・教室・体験イベントについて、新型コロナウイルス感染症対策をしながら円滑に運営し、参加者の歴史と文化に対する興味関心を高めることができた。特に古文書講座については、これまでの参加者からの要望を受けて、より初歩的な内容を盛り込んで実施し、好評を得た。 ○ 体験イベントについては、昨年秋から人数制限・事前予約制を実施し、運営について改善を続けてきた。春のイベントでは、参加者の満足度がより高まるように個別プログラムの内容や体験人数などを見直し、参加者の満足度向上に努めた。チラシについても事前予約制が一目でわかるように工夫した。秋の体験イベントでは、一人が体験するプログラム数や参加時間帯の傾向を分析し、午前・午後の2部入れ替え制(事前予約)で開催。新型コロナウイルス感染症対策を十分にしながら前年度以上の参加者を得た。 ○ 体験を通して歴史を学習する場である子ども歴史館では、新型コロナウイルス感染症の影響で十分な活動が困難であったが、感染症対策をとりながら解説員を中心にインタラクティブシアターとワークワゴンの運営を継続した。	3	感染症対策として、講座の参加人数に制限を設けたり、やむを得ず中止したりしたものもあるが、講座、体験教室、体験イベントについて、内容と運営を検討し、改善しながら事業を継続することができた。こども歴史館についても十分な活動は困難であったが、感染症対策をとりながら運営を継続することができた。次年度以降も運営方法を常に検討し、臨機応変に対応していく必要がある。
(2) 学校が博物館を効果的に活用できることを目指します。	⑥		学校利用に対する学習支援の充実を図ります。	【企画部企画班】 ○ 昨年度までの常設展を利用した学校団体へのアンケート結果と、展示室での活動内容の観察から、学習シートと探検カードに対するニーズが高いことがわかった。このことから、小学校・中学校の学習と博物館の展示とを関連させた学習シート案を作成し、展示をより活用できるように準備を進めた。 ○ 学習シートと探検カードを充実させ、これを中心に広報を展開し、学校利用の促進を図った。	3	新型コロナウイルス感染症の影響で小学校団体利用が少ない中ではあるが、学習シートと探検カードの利用は利用団体の60%を超えており、効果的な学習支援が図られている。

3 調査・研究

- 調査研究事業は、博物館活動の基盤という意識を館員で共有しながら、県民の文化向上を目指した事業を推進するよう努めている。そのような中、調査研究の予算が逼迫する状況に鑑み、外部研究との連携や外部予算の獲得に努めた。
- ただし、調査研究事業は博物館活動や県民に対し、展示及び各種講座等をとおしてその成果や情報が還元されてこそ事業として完結するものであることから、連携や資金獲得それ自体が「目的化」しないよう注意を払いながら事業を推進した。

活動方針	達成目標No	重点目標取組	後期達成目標	実績	評価	推進委員会の意見
(1) 東北の歴史・文化等に関する調査・研究を推進し、その成果を積極的に公開・普及活動の基盤とします。	⑦		研究テーマや目的を明確化し、成果を積極的に公開します。	【学芸部学芸班】 ○ 考古、民俗、歴史、美術工芸、建築、保存科学など研究分野ごとに調査研究・成果公開の内容と予定を明確にした事業計画(単年度及び複数年度計画)を年度当初に策定し、学芸会議等で情報を共有した。現在、事業は少なからず新型コロナウイルス感染症の影響を受けるものの、必要に応じて随時、成果と課題に関する議論と総括を実施しながら、いずれの分野も概ね計画通りに進捗した。これらの成果は、本年度の博物館事業として研究紀要等の出版物、県民を対象とした「れきはく講座」等による公開のほか、次年度以降の調査研究にも活用されるよう計画を進めた。なお、主な成果は、研究紀要は46件の論文・報告を掲載し、展示は、自主企画特別展「みちのく 武士が愛した絵画」1件、「宮城県の上師器」などテーマ展示10件を実施するとともに、各種講座は「れきはく講座」が6件行われた。この他にも随時、特別展解説などを実施しており、1人あたり2件以上の公開と地域への成果還元を達成した。	3	調査研究予算の削減や新型コロナウイルス感染症の影響など、直面する現実と折り合いをつけながら、業務は概ね順調に進行している。
	⑧		総合展示室リニューアルをはじめとする公開や教育普及、博物館運営等、博物館学的な研究をさらに推進します。	【学芸部学芸班】 ○ 博物館学的な研究については事業計画を年度当初に策定し、その計画に基づき推進する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により外部研修の殆どが中止または次年度へ延期になったことから、当初の計画の修正を余儀なくされた。そのような中、博物館事業や運営の充実のため「公益財団法人日本博物館協会東北支部研修会・視察研修会」に職員を派遣するとともに、「文化庁令和3年度歴史民俗資料館等専門職員研修会」、「文化庁令和3年度文化財(美術工芸品)保存修理講習会」、「文化庁令和3年度ミュージアムマネジメント研修」及び「文化庁令和3年度博物館学芸員専門講座」を受講し、博物館運営ならびに博物館学的な研究を推進した。	3	開催された対面研修に積極的に参加し、その成果を博物館運営に活かすとともに、博物館学研究を推進した。また、座学など対面を必ずしも必要としない研修へのオンライン参加はゼロ予算での実施が可能であり、今後の積極的な参加が期待される。

<p>(2) 他の博物館・研究機関等との連携を深め、調査・研究活動の質の向上を目指します。</p>	<p>◎</p>	<p>○</p>	<p>調査・研究予算確保のため、外部資金の導入を図ります。また、他の博物館や研究機関・団体と連携協力して行う事業を展開します。</p>	<p>【学会部学芸班】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 調査研究事業に充当する外部資金として科学研究費では、令和2年度採択済の「恒久的保存に向けた災害被災資料の特性解明と保存環境の構築」1件を活用した。また、次年度以降の調査研究事業として、新たに保存科学分野と考古研究分野から各1件を科学研究費に応募した。さらに、広く博物館活動全体に充当するため、宮城県地域文化遺産復興プロジェクト実行委員会が実施する国庫補助事業「しおがま・まつしま文化財めぐり活性化事業」及び「宮城県の無形文化遺産情報発信事業」の事業主体者として、その事業と予算を普及活動に留まらず文化財調査にも活用した。 ○ 外部機関との連携協力では、資料調査については秋田県及び岩手県などの近隣県と、保存環境調査・構築構築の連携支援では、塩竈市及び大崎市など県内市町村を始めとする地方公共団体、保存環境調査・構築支援及び資料調査等の連携支援では名取市歴史民俗資料館、石巻市博物館及び国立民族学博物館などの県内外の博物館施設、東北大学、弘前大学及び中央大学や特定非営利活動法人栗駒山麓ジオパーク推進協議会など大学及び民間等と積極的に連携を図り、調査研究を推進した。それらの成果は、特別展等の展示事業や講座等の教育普及事業など多岐にわたる当館の博物館活動に活用され、県民へ公開・還元された。さらに、次年度も他機関の研究への協力者として新たに2件の応募を既に行っており、これにより一層の研究の推進と連携協力を図っていく。また、博物館実習では19名の実習生と、東北大学連携大学院「文化財科学」等による学生1名の受入・指導をそれぞれ行い、将来の博物館を担う人材育成に貢献した。 	<p>3</p>	<p>外部資金は概ね計画通り確保できている。今後も積極的に獲得に努め研究を推進するとともに、他機関との連携強化に努め、研究の推進や人材育成をより一層推進する必要がある。</p>
---	----------	----------	---	---	----------	--

4 資料の収集と保管・活用

○ 文化財を未来へ確実に受け渡す責務を果たすべく、資料受納、収蔵品管理、収蔵環境管理、資料出納、情報公開など多岐にわたる業務を担っており、事業は概ね適正に推進した。
 ○ 浮島収蔵庫の老朽化への対応、同収蔵庫資料整理やデータベース充実化への対応などについては今後の課題であるが、今年度はその準備作業の一環として、移動に向けた資料総数の把握と業務量の積算を進めた。

活動方針	達成目標No	重点目標取組	後期達成目標	実績	評価	推進委員会の意見
<p>(1) 東北の歴史・文化等に係わる資料を系統的に収集し、その積極的活用を図ります。また、収集した資料の特質に応じた適正な保存管理策を講じ、後世へ継承します。</p>	<p>⑩</p>	<p>○</p>	<p>研究分野ごとの資料収集方針に基づき、計画的な資料収集を行います。</p>	<p>【学会部学芸班】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度も資料収集方針に基づいた計画的な資料収集を進め、これまでに歴史資料2件2点、考古資料1件1点及び1件1式、美術工芸資料2件2点を受納した。また、昨年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大による事前準備の停滞のため、美術品等取得基金を利用した資料購入について断念せざるを得なかったが、今年度は資料収集専門部会に購入候補資料9件11点を諮り、承認された。 	<p>3</p>	<p>事業は、資料収集方針及び資料取扱要領等の方針に基づき適切に進行している。</p>
	<p>⑪</p>	<p>◎</p>	<p>収蔵環境を整備し、より安定的な資料保全を図ります。</p>	<p>【学会部学芸班】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 収蔵庫等の温湿度の恒常的なモニタリング及び温湿度変動期の速やかな処置等を通して、温湿度の安定化をはじめとした収蔵環境の管理方法等の精査・改善を推進した。 ○ 浮島収蔵庫の考古資料特別整理にかかる資料総数の再確認及び業務量の積算を進めた。 	<p>3</p>	<p>収蔵環境は概ね適切に維持されている。また、将来の移動に備えた資料総数の再確認及び業務量の積算も概ね順調に進行している。</p>
	<p>⑫</p>		<p>収蔵資料のデータベースをさらに充実させ、インターネット等を活用して収蔵資料の情報公開を推進します。また、実物資料及び写真資料、図書資料の貸出・閲覧・撮影等にも適切に対応します。</p>	<p>【学会部学芸班】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各研究分野で未公開資料ならびに新収蔵資料を中心に約300点の整理・データベース化を計画的に進めた。 ○ 図書資料約2,000点及び動画・デジタルメディア約300点の登録整理・データベース化を推進し、公開した。 ○ 二次資料再整理計画に基づき、作業を推進した。とくに、VHSビデオテープに格納される動画アナログデータ80本のデジタル変換及び公開を年度末に行うため、作業を進めた。 ○ 実物資料貸与約300件及び写真資料貸与等約60件、図書資料の閲覧・レファレンス約400件に適切に対応した。 	<p>3</p>	<p>事業は概ね計画どおり、かつ円滑に進行している。</p>

5 情報の発信

- 広報活動については、催事テーマ等に応じて広報先や方法等を検討して効果的かつ効果的な情報発信を行った。
- ロゴマークをホームページのアイコンに使用し、多くの人に認知してもらえよう取り組んだ。
- ホームページとSNS (twitter、Facebook) を連動させてイベント等の広報を行い、幅広い客層への情報発信をすることができた。親しみやすい情報をSNSとホームページに掲載し、利用者の利便性向上に取り組んだ。
- 他館との連携については、美術館との取組を継続したほか、エントランスにデジタルサイネージを導入し、新たな広報媒体として活用した。

活動方針	達成目標No	重点目標取組	後期達成目標	実績	評価	推進委員会の意見
(1) 当博物館の存在や活動・事業の内容等を積極的にお知らせします。	13		わかりやすいアクセス情報を提供します。	【管理部情報サービス班】 ○ 特別展開催の都度、当館駐車場への導線を統一したサインで明示した看板を、周辺道路上に設置したほか、問い合わせに対する電話応答例文を整理し、わかりやすい誘導に努めた。 ○ 当館で契約している電柱看板の設置箇所について、撤去可能なものの洗い出しとともに、利府方面ルートにおける移設候補地の検討調整を図った。	3	来館者が道に迷うことのないよう、利用頻度の高い交差点などの見やすい位置に案内表示を設置するなど、アクセス情報の最適化に取り組んだ。
	14	◎	多賀城市及び近隣市町との連携を強化します。	【管理部情報サービス班】 ○ 多賀城市及び近隣市町における歴史・文化事業や観光事業等で制作する雑誌等に当館の展示や催事情報等を提供するなど相互協力を進めた。 ○ 1階及び3階エントランスを中心に、近隣市町の催事情報をポスター掲示・チラシ配架を適時行い、来館者への情報提供に努めた。 ○ ジェラシック大恐竜展では「多賀城市民特別観覧日」の設定や多賀城市による「光のインスタレーション」の開催など、多賀城創建1300年に向け連携を強化した。	3	近隣市町広報等を通じた博物館催事の周知と、来館者への近隣市町の催事情報提供など連携して事業運営にあたった。また、令和6年度多賀城創建1300年に向け連携を強化した。
	15	○	館のロゴを制定し、館のシンボルとして活用します。	【管理部情報サービス班】 ○ 当館ウェブサイトのシンボルマーク・イメージとして、ロゴマークを設定した。favorite iconとして、当館ホームページのブランディングを図った。 ○ 県内小中高2年目教員対象の初任研講義において、当館利用方法とともに、ロゴマークとイメージキャラクター「コロリン」について周知・PRを行った。	3	教職員向けの説明や、当館ホームページアイコンにロゴマークを設定するなど、周知拡大に努めた。
	16	◎	来館者の増加につながるような実効力のある効果的な広報を展開します。	【管理部情報サービス班】 ○ 特別展 企画部広報担当者や特別展担当者や連携し、海外雑貨店との連携（デンマークデザイン展）、県内全小学生へのチラシ配布（恐竜展）、県芸術協会・画材店へのチラシ配布（絵画展）など、想定ターゲットに応じた広報に努めた。 ○ 講座、イベント 当館ホームページやSNS等で素早い情報提供に努めた。特別展関連イベント告知において、SNSを週一回ペースで配信し、適時適切なタイミングでの周知に努めた。 ○ 教育普及（学校団体） 予約受付時に予約状況を提示して、丁寧な予約調整に努めた。コロナ禍における変更・キャンセルに柔軟に対応した。 ○ 広報 今年度の特別展（3件）について、雑誌広告「S-style.Kappo」に時機に応じた広告掲載を行い、企画内容と近いジャンルに関心がある購読者を対象とした情報を発信し、当館のブランド価値を高めた。	3	来館者の増加につながるよう、それぞれの催事内容に合わせてターゲットとなる客層への訴求効果の高い広報先の選定や広報手段を検討し、効果的に経済的な情報発信を行った。併せて、きめ細やかなSNSの発信で幅広い客層への広報を行った。また、コロナ禍におけるキャンセルから再予約まで、柔軟な対応に努め、秋口における学校団体利用回復に一定の効果が見られた。
(2) インターネットを通じて情報の速やかで効果的、魅力的な発信に努めます。	17		他館と連携した広報を行うとともに、館内掲示物を充実させます。	【管理部情報サービス班】 ○ 宮城県美術館との相互割引を継続実施するとともに、秋季特別展に係る瑞藏寺との連携割引など、これらの情報を中央ロビーのサイネージに掲示することで、来館者への確実な情報発信を行い、仙台・松島方面への周遊に繋げた。	3	引き続き関係施設との連携を深めた。デジタルサイネージの導入により、適時に催事情報や注意事項を更新表示し、新たな広報媒体として活用した。今後も、企画内容に応じた図書館など連携先の拡充を図る。
	18	○	ホームページを充実します。	【管理部情報サービス班】 ○ 写真などを用い見やすいレイアウトを工夫するとともに、恐竜展CM動画の掲載なども取り入れ、利用者の興味を高めた。「週末イベント情報」のほか、夏季特別展における当館利用の際の「混雑回避のコツ」等、親しみやすい情報をSNSとホームページに掲載し、利用者の利便性向上に取り組んだ。	3	ホームページとSNSの連携により、最新の情報更新を行った。要を得た構成・デザインに徹し、知りたい情報に確実にたどり着けるホームページ運営を心がけた。
	19		WEBや電子メールを活用し事業を促進します。	【管理部情報サービス班】 ○ 県教育委員会ホームページハナア広告のほか、twitterやFacebookによる広報に力を入れた。 ○ みやぎ電子申請サービスの活用を段階的に進め、年度後半から、定員を設けた催事の参加受付等で本格運用を開始し、効果的な集約作業の環境を整えた。	3	様々な情報発信ツールの利活用を推進した。今後も利用者のITリテラシーに配慮し、情報格差の解消や不利益不均衡が生じないように取り組んでいく。

6 県民参加

- アンケートの電子化や、コロナ禍の行動分析による来館者の要望や動態を館内で共有し、対応が可能なものから順次取り組み、利用者の声が反映される博物館運営に努めた。
- 新型コロナウイルス感染の影響を見据え、活動内容の見直しを行い、ボランティア活動を再開した。
- 博物館友の会に対し、事務局として各種企画の立案や様々な支援を行った。他館との公開講座等の情報提供を優先的に行い会員の学びの機会を提供した。
- キャンパスメンバーズ制度により、加盟校の学生が個々に常設展示や特別展示の観覧料割引制度を利用した。

活動方針	達成目標No	重点目標取組	後期達成目標	実績	評価	推進委員会の意見
(1) 利用者のニーズが博物館の運営に十分に反映されるよう努めます。	20	◎	来館者のニーズを把握し、そのニーズに対応します。	【管理部情報サービス班】 ○ 特別展に係る統計分析において、コロナ禍における消費行動と観覧者の動態を検証し、感染拡大期の各局面に対応した安全対策プランを構築し、催事運営に努めた。また、アンケートを電子申請へ切り替えを図り、緻密に観覧者のニーズが垣めるよう設問項目の大幅な見直しを行った。	4	電子化によりリアルタイムにニーズの把握と緻密な分析を行うことができ、部間で来館者の要望を共有し、対応が可能なものは速やかに対応した。
(2) 博物館への県民参加を、積極的に推進します。	21		館内ボランティア業務を円滑に運営します。	【企画部企画班】 ○ コロナ禍の中でも可能な博物館ボランティアの活動方針と募集方法・運営を検討し、活動を再開できた。 ○ 博物館ボランティアの活動について整理し、今野家住宅の維持管理や体験イベントでの運営補助など、安心・安全なボランティア活動の場を提供し、運営を円滑に行った。 ○ 体験イベントにおける大学生ボランティアについては、コロナ禍の情勢をみて今年度は活動を見合わせた。来年度以降の活動再開に向けて、大学の関係部署と情報共有し、協力体制の維持を確認した。	3	感染症対策をした上で実施可能な博物館ボランティアの活動について整理し、活動を再開できた。安心・安全な活動の場を提供して県民参加を推進している。次年度以降も円滑な運営を目指し柔軟に対応する必要がある。
	22		博物館友の会の活動に対し支援をしながら、自立した会の体制整備に向けて助言、提案をします。	【管理部情報サービス班】 ○ 館内に置く事務局は会員証の発行事務や役員会・総会運営への支援・助言に努めた一方、友の会行事・企画・会計処理などについては、役員会が主体的に行っており、自律的な運営への移行が定着した。 ○ 友の会発足10周年記念講演の企画運営について、館として支援・協力した。また、斎宮歴史博物館との公開講座に係る情報提供を行うなど、会員の学びの機会を提供した。	3	各種企画立案、運営、調整を支援した。今後も一層の質的向上と自立に向けて協力していく。
	23		大学等学校単位での利用を促進します。	【管理部情報サービス班】 ○ 加盟校へ新入生用のキャンパスメンバーズ制度の案内や、特別展のポスター・チラシ、催事等の情報提供を行い、利用促進の広報を行った。	3	加盟校への情報提供を適宜行った。今後は、次期特別展と関連する学問分野の未加入校に対し、訴求力のある情報提供を行い新規加盟校の拡大に努めていく。

7 施設の整備・管理

- 老朽化が進む施設の計画的な更新等を行った。今後も計画的な更新を進めていく。
- 費用対効果の最適化に向け、SNSの活用や外部サービスの利用を開始した。併せて、新たなネットワーク整備について議論を開始した。

活動方針	達成目標No	重点目標取組	後期達成目標	実績	評価	推進委員会の意見
(1) 利用者が利用しやすい施設・設備環境に向けて検証と改善を行います。	24	◎	施設設備整備検討委員会で現状を再検証し、障害者や海外の方を含めた全ての来館者の安全と文化財の保全管理に配慮した施設設備を整備します。	【管理部管理班】 ○ 施設整備計画に基づき、以下の工事を順次実施し、来館者の安全と文化財の保全管理を図った。 ・中央監視装置改修工事 ・エレベーター改修工事 ・総合展示室リニューアルランプ改修工事 ・今野家住宅カプコン等改修工事 ・講堂照明改修工事（設計） ・空調機器類改修工事（設計） ○ 新型コロナウイルス感染症対策として、サーマルカメラ、消毒液等の設置や、不特定多数が触れる場所の定期的な消毒作業等を行った。	3	開館から20年以上経過し老朽化が進む中、施設整備計画に基づき必要な工事等を行った。今後は、次期中長期目標設定と併せて現在の常設展示を含む施設全体の課題を解消することを目指し、更新案を検討していく必要がある。
	25		情報システムを更新します。	【管理部情報サービス班】 ○ 講堂等でWEB会議等が実施できる仮設環境整備に取り組んだ。将来ICTを活用した恒常的なサービスが展開できるよう、講堂等のネットワーク拡張や展示室内の管理用無線LANの整備について、情報収集に着手した。 ○ 特別展会期中に週一回ペースで催事情報を配信した。SNSのフォロワー数の増加を目指し、周知効果の高いアカウントのフォローバックを行った結果、twitterフォロワー数が201→724と約3.5倍に増加した。（R4.3.1現在） ○ Googleマイビジネスに登録し、マップエンジン最適化対策を開始した。	3	セキュリティの安全性を確保し、情報システムの安定的な運用を行うとともに、外部サービスを積極的に活用した。今後は次期システム更新に向け、新しい技術を取り入れながらハード・ソフト両面において時代に合わせた新システム構想について、議論していく。
(2) 災害時に博物館として、また県の施設として機能できるようにします。	26	○	災害時の施設利用・管理について取扱いを整備します。	【管理部管理班】 ○ 災害応急対策マニュアルに基づき総合防災訓練を実施。 ○ 仙台保健福祉事務所との大規模災害時における施設提供についての協定に基づく受け入れ備品の状況について確認。施設貸出し時についての打ち合わせを行った。	3	災害時の来館者の安全確保と地域との連携を図るため、防災体制の強化・整備を進めた。

8 組織・人員

- イベント等について、部班間での協力体制の確保し、職員一丸となって取り組むことができた。
- 今後とも効率的・効果的な業務運営ができる組織を目指すため、適正な人員配置と協力体制の確保に努めていく。

活動方針	達成目標No	重点目標取組	後期達成目標	実績	評価	推進委員会の意見
(1) 組織の効果的、効率的な事業運営が確保される体制を構築します。	27		部班の所管を検証し、必要な見直しを行います。	【管理部管理班】 ○ 部班の所管を検証し、適正な人数配置を行った。	3	今後も、博物館活動を様々な視点から管理運営していくため、十分な知識・経験を有する人員の配置と若手職員の育成に努めていく。
	28		効率的な事業運営が確保されるよう部班間の協力体制の調整を行います。	【管理部管理班】 ○ 各事業について、事業内容把握し、事前の情報提供や現状報告など連絡調整を行うことで、効率的な事業運営が行われるように努めた。 ○ 特別展及び行事については、必要人員数に応じ、部班を超えて協力体制がとれるよう調整を行った。	3	コロナ対策や外部機関との協議においては、さらに部班間で連携協力し効率的な組織対応を図っていく。

9 東日本大震災対応

○ 被災資料の修復など東日本大震災対応が一段落した現在においては、震災以後の各種災害への対応に軸足が移りつつある。
 ○ 災害で得られた貴重な教訓を今後どのように活かすべきか、その議論が深まりつつある。
 ○ このような社会状況の変化に対応しながら、今後も県立博物館として果たすべき役割を追究するとともに、その任を全うする必要がある。

活動方針	達成目標 No	重点目標 取組	後期達成目標	実績	評価	推進委員会の意見
(1) 震災復興に貢献する博物館活動を積極的に展開します。なかでも県内の被災文化財の保全活動をリードし、活動全体を推進します。	29		県立博物館として、県内の文化財の保全活動をリードし、活動全体を推進します。併せて被災文化財の修復や保存に関わる技術的な研究も進めます。	【学芸部学芸班】 ○ 東日本大震災後の災害を含め、他機関と連携・協働し、被災資料の保全・修理活動を推進した。今年度は、8月に石巻市の被災資料収蔵施設の保存環境構築にかかる技術支援及び指導を行った。併せて、被災閉館した旧石巻文化センターを継承する石巻市博物館の開館に向けて、保存環境構築にかかる技術支援及び指導を行った。さらに、山元町文化財収蔵庫及び県内所在宗教法人の文化財収蔵庫の保存環境構築にかかる技術支援及び指導を行った。また、文化財課と連携し、近年の地震により被災した民俗資料1点と建造物1棟及び美術工芸品1点の処置・修理について専門的助言を行った。	3	当館が果たすべき役割をよく理解し、事業は概ね順調に進行している。
(2) 災害に関する調査・研究を進め、常設展示をはじめとする公開・普及事業での活用に取り組みます。	30	◎	災害と復興の歴史及び災害に関する資料の調査・研究を推進します。	【学芸部学芸班】 ○ 災害の歴史及び災害に関する資料について調査研究を行うとともに、次年度以降に本格実施を計画している、非常時を意識した低エネルギー低コスト収蔵手法の構築に関する研究の事前準備を進めた。	3	次年度以降の本格実施に備え、準備作業は概ね順調に進行している。
	31	◎	復興祈念事業を展開し、震災から立ち上がろうとする県民の活力増進の一助とします。また、防災教育の拠点として災害展示の公開を目指した整備を進めます。	【学芸部学芸班】 ○ 令和5年度特別展「悠久の絆」（予定）を始め復興祈念事業にかかる調査研究事業を進めるとともに、ICOM-DRMC国際博物館会議博物館防災国際委員会関連シンポジウム「博物館・文化財等の被災と再生をテーマとした討議」及び国立文化財機構主催「水損紙資料に関する勉強会／意見交換会」に職員を派遣し、災害にまつわる博物館、博物館資料及び文化財等の情報を収集・蓄積した。	3	復興祈念事業についても、次なる災害への対応策定についても、概ね順調に進行している。

総合評価				○ 「常設展示・企画展示」では、引き続き先行事例の調査と情報収集を進めながら、総合展示室を含む常設展示の課題と改善案について職員の意見をまとめ、リニューアルの基本構想策定に向けて作業を進めている。特別展については、感染症対策と展示の魅力向上を両立させ観覧者の高い満足度を得た。特に外部巡回展では新たな層の利用者の獲得した。 ○ 「教育普及」では、各種講座・教室・体験イベント・こども歴史館の体験について、感染症対策に留意しながら円滑に運営した。学校利用についてニーズを収集・分析し、歴史と文化に対する興味関心をより高める内容で実施した。 ○ 「調査・研究」では、博物館活動の基盤との意識を共有し、外部研究機関とも連携し、各研究分野ごと概ね年度計画どおり事業を進めた。 ○ 「資料の収集と保管・活用」では、方針や年度計画に基づき事業を進め、昨年度はコロナの影響により断念した美術品等取得基金での資料購入に向け準備を進めている。 ○ 「情報の発信」では、利用者目線に立脚しながら費用対効果や媒体の最適化を進め、利便性向上に努めた。 ○ 「県民参加」では、アンケートの電子化等によりニーズ把握の迅速化に努めた。コロナの影響により休止したボランティア活動を再開したほか、友の会の自立的運営に向け支援を行った。 ○ 「施設の整備・管理」では、安全・安心・快適な博物館運営を目指し計画的な施設整備を行った。情報サービスの提供でも最適化を図った。 ○ 「東日本大震災対応」では、社会の変化や成熟に対応しながら、本館が果たすべき役割を考慮し、新たな視点や価値観を積極的に取り入れ事業推進した。	3	○ 昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたが、今年度の実績及び成果を踏まえ「ほぼ達成されている」と評価する。 ○ 今後とも、感染症対策に十分留意しながら「”み”たい博物館」の創造を目指し、博物館の設置理念を着実に遂行するとともに、社会の変化や成熟に対応しながら、各種目標の取組を進め、館のさらなる利用促進につなげていく。
------	--	--	--	---	---	--